



「史跡指定100年の節目に」

新年明けましておめでとう  
ございます。本年も市民の皆さまと共に新しい年を迎えることが出来ますこと、大変ありがたく存じております。旧年中は市政全般にわたり温かいご理解とご協力を賜わり、心より厚く御礼申し上げます。

令和二年を改めて振り返りますと、やはりコロナに始まりコロナに終わる一年となりました。本市でも陽性判明者は50人を超え、市内病院においてクラスターも発生いたしました。年末年始も対策対応に万全を期さなければなりません。

また、国際観光都市、令和発祥の都として一昨年多くの観光客を記録しましたが、四月五月は実に96%減という壊滅的状况に陥ったため、近隣の3倍の額となる最大30万円の頑張ろう令和支援金など思い切った策を断行しました。

一方、三役の給与カットや市長車の売却、市議会公務費削減

など身を切る改革や令和効果による剰余金、本年度のふるさと納税増分で3億円の独自財源を捻出し、総計15億円に及ぶ充実したコロナ対策メニューを可能にしました。

うれしいニュースもさまざまございました。就任二年目となる令和元年度決算も、令和発祥の都としての意欲的な取組の成果が実り、市税が約1億2千万円、ふるさと納税も約4倍、2億1千万円の大幅な増加を記録いたしました。

また、国や県からの補助金活用に努める一方、新たな借り入れを極力抑え、繰り上げ分も含め市債約6億7千万円の返済を実現しました。基金も新たに2億1千万円上積みする一方、コロナ禍でもその取り崩しを回避いたしました。

そうした成果が認められ、日経BP社の全国住みよい街ランキングで20位、ブランド総合研究所の市区町村魅力度調査では42位と上位を獲得し、その中でも多様な地域参加部門が1位、行政情報発信部門が6位と最も評価されました。

その他にも、三月にはかねてより訴えてまいりました私の

公約を基に本市の底力総發揮構想、全世代居場所と出番構想、大主宰府構想、持続可能な大宰府構想を柱としたまちづくりビジョンを打ち立て、鋭意実行に移しております。

四月には念願の地域包括支援サブセンターをとびうめアリーナ横のスポーツ振興事務所1階にオープンし、従来の包括支援センターと東西の役割分担を行うことで、よりきめ細かい高齢者の総合的な支援を可能にいたしました。

また同じく四月には特別史跡大宰府跡の一部古代の客館跡を整備して史跡広場とし、六月には従来の日本遺産「古代日本の西の都を大宰府構想の一環として近隣地域に広域化するなど、史跡の活用にも力を入れてまいりました。

七月には本市初めてとなる民間企業との人事交流を実現し、九州電力から総合職の東谷氏を観光経済部理事として迎え、本市若手職員を先方に送り出しました。また就職氷河期世代採用も初めて行い、七人を新たに受け入れました。

昨年来国や県との人材交流も積極的に実行しましたが、民

間勤務やさまざまな挫折を経験した新たな人材も複数受け入れることで本市の職場風土も活性化し、市と市民の為にさらに働く組織に脱皮してくれると確信しております。

そうした人材が中心となつて、九月には西日本鉄道と十一月には九州電力とそれぞれまちづくりに関する包括連携協定が締結に至り、早速年末年始のコロナ対策や観光振興、産品開発などの新たなプロジェクトが動き出しております。

力を入れてまいりましたふるさと納税も、大宰府らしさや独自性を追及した返礼品のライオンナップも充実し、着実に寄付額が増えております。4倍増を記録した昨年の更に2倍増、5億円の大台を達成できると見込んでおります。

さて、大正十年に本市が誇る大宰府跡・水城跡がわが国で初めて史跡指定を受けてから本年三月で節目の100年となります。これを機に本市の歴史や文化を改めて見つめ直すと共に、更なる100年への誓いを立てなければなりません。

二月には新元号考案者として招

きし、三月には近世・近代の日本文学に造詣が深くテレビでもお馴染みのロバート・キャンベル氏をお招きし、それぞれ大宰府の歴史や文化の意義を語っていただく予定です。

また十月には、昨年中止を余儀なくされた全国史跡整備市町村協議会の総会を特例で改めて本市で開催することとなりましたので、本市の誇る史跡を改めて内外に知らしめ、今後100年に向けた活用ビジョンを打ち出していきたいと思います。

コロナ禍は今なお続き、まだまだ課題もございますが、本年も世の為人の為、市の為市民の為に、私が持ちうる力の全てを出し尽くす覚悟でありますので、市民の皆さまの変わらぬご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、改めて今年一年の皆さま方の益々のご健勝ご多幸を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

大宰府市長  
堀日 大蔵